

**IBM Rational COBOL Generation Extension for
zSeries バージョン 6.0.1**



インストール・ガイド

**IBM Rational COBOL Generation Extension for
zSeries バージョン 6.0.1**



インストール・ガイド

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、25 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Rational EGL COBOL Generation Extension for zSeries のバージョン 6.0.1 (部品番号 5724-N92) および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： GI11-6743-00
IBM Rational COBOL Generation Extension for zSeries, Version 6.0.1
Installation guide

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

インストール要件	1	サイレント・インストールの起動	17
ソフトウェア要件	1	応答ファイルを使用してサイレント・インストール を行う	18
ソフトウェア前提条件	1		
ハードウェア要件	2		
ユーザー ID 要件	2		
アップグレードおよび共存の問題	3		
ランタイム・ソフトウェア相互必要条件	5		
インストール前の作業	7		
インストール・プログラムを使用して Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールする	9	Rational Application Developer または Rational Software Architect の EGL フ ィーチャーをインストールおよび更新する . 19	
アクセシビリティ情報	9	EGL フィーチャーをインストールする	19
インストール手順	9	EGL フィーチャーを更新する	20
電子インストール・イメージを作成する	13		
インストール・イメージを共用ドライブに 作成する	15	Rational COBOL Generation Extension for zSeries のアンインスト ール	21
サイレント・インストール	17	Rational COBOL Generation Extension for zSeries の サイレント・アンインストールを行う	22
		更新をインストールする	23
		Rational Application Developer または Rational Software Architect を更新する	23
		特記事項	25
		商標	26

インストール要件

IBM® Rational® COBOL Generation Extension for zSeries® をインストールするためには、ご使用のシステムが、本節でリストする要件を満たしている必要があります。

ソフトウェア要件

Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールするためには、ご使用のシステムが、本節で説明するソフトウェア要件を満たしている必要があります。

ソフトウェア前提条件

この製品をインストールする前に、以下のソフトウェア項目のいずれかをインストールする必要があります。

- IBM Rational Application Developer バージョン 6.0.1 以降 (Enterprise Generation Language (EGL) フィーチャーを含む)。
- IBM Rational Software Architect バージョン 6.0.1 以降 (EGL フィーチャーを含む)。

Rational Application Developer または Rational Software Architect のバージョン 6.0.1 (またはそれ以降) をインストールするには、最初にその製品のバージョン 6.0 をインストールして、次に更新ツール Rational Product Updater でその製品をバージョン 6.0.1 以降に更新します。 23 ページの『更新をインストールする』を参照してください。

Rational Application Developer または Rational Software Architect のインストール時に EGL オプション・フィーチャーをインストールしなかった場合、Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールする前にこのフィーチャーをインストールする必要があります。 19 ページの『EGL フィーチャーをインストールする』を参照してください。

EGL フィーチャーをインストールする前に、Rational Application Developer または Rational Software Architect をバージョン 6.0.1 以降に更新した場合は、EGL フィーチャーも更新する必要があります。 20 ページの『EGL フィーチャーを更新する』を参照してください。

Rational Application Developer または Rational Software Architect をインストールする場合のソフトウェア要件については、対応する製品のインストール・ガイドを参照してください。

Rational COBOL Generation Extension for zSeries はインストールされると、Rational Application Developer または Rational Software Architect の共通開発環境を共有します。(IBM Rational Software 開発プラットフォームは 1 回のみインストールされます。) Rational Application Developer および Rational Software Architect には、ワークベンチという、同一のユーザー・インターフェースが用意されています。

Rational COBOL Generation Extension for zSeries のインストール時にプラグインを提供することで、機能がワークベンチに追加されます。プラグインは、既存のプログラムまたはアプリケーションに機能を追加するソフトウェア・モジュールです。

ハードウェア要件

ディスク・スペース要件:

- Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールするには、Windows[®] システムの場合は 200 MB のディスク・スペースが必要で、Linux[®] システムの場合は 225 MB のディスク・スペースが必要です。
- このディスク・スペースは、Rational Application Developer または Rational Software Architect のインストールに必要なディスク・スペースとは別に必要となります。
- また、IBM Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールするための電子イメージをダウンロードする場合は、さらにディスク・スペースが必要となります。
- Windows の場合: ファイル・システムが NTFS ではなく FAT32 の場合、より多くのスペースが必要となります。また、TEMP ディレクトリーに 100 MB が必要です。
- Linux の場合: /tmp ディレクトリーに 100 MB が必要です。

その他のハードウェア要件は、Rational Application Developer および Rational Software Architect のハードウェア要件と同じです。対応する製品のインストール・ガイドを参照してください。

ユーザー ID 要件

Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールする前に、以下の要件を満たすユーザー ID が必要です。

- ユーザー ID に 2 バイト文字を含めてはならない。
- Windows の場合: Administrators グループに属するユーザー ID が必要である。
- Linux の場合: root でログインできる必要がある。

アップグレードおよび共存の問題

- Rational COBOL Generation Extension for zSeries は、以下のソフトウェアが同じマシンにインストールされている場合、そのソフトウェアと共存できません。
 - IBM WebSphere® Development Studio Client Advanced Edition for iSeries™
 - IBM WebSphere Developer for zSeries

これらの製品のいずれかが、ご使用のシステムにすでにインストールされている場合、Rational COBOL Generation Extension for zSeries はインストールできません。

また、同じマシンに WebSphere Development Studio Client Advanced Edition for iSeries または WebSphere Developer for zSeries をインストールする場合は、Rational COBOL Generation Extension for zSeries をアンインストールすることをお勧めします。WebSphere Development Studio Client Advanced Edition for iSeries または WebSphere Developer for zSeries を Rational COBOL Generation Extension for zSeries と同じシステムにインストールすることはサポートされていません。

- Rational COBOL Generation Extension for zSeries を Rational Application Developer バージョン 6.0.1 以降とともにインストールし、次に Rational Software Architect をインストールする場合、最初に Rational Software Architect バージョン 6.0 をインストールし、その後 Rational Software Architect のバージョン 6.0.1 以降の更新をインストールします。Rational COBOL Generation Extension for zSeries を再インストールする必要はありません。

ランタイム・ソフトウェア相互必要条件

IBM Rational COBOL Runtime for zSeries (5655-R29) は、zSeries マシンでランタイム・ライブラリーを実行する場合に必要であり、別途購入していただくことになります。Rational COBOL Runtime for zSeries は別途購入していただくことになりますが、Passport Advantage[®] では提供されていません。

インストール前の作業

製品をインストールする前に、以下のことを確認してください。

- 1 ページの『インストール要件』の節で説明されている要件をシステムが満たすことを確認します。
- 3 ページの『アップグレードおよび共存の問題』を確認します。
- 環境変数 TEMP (Windows システムの場合) または TMP (Linux システムの場合) が、少なくとも 100 MB の空きスペースを持つ有効な一時ディレクトリーに設定されていることを確認します。このスペースは、製品のインストールに必要なスペースとは別途必要となります。
- 製品のインストールに必要なアクセス権をユーザー ID が満たしていることを確認します。2 ページの『ユーザー ID 要件』を参照してください。
- インストール作業中は Rational Application Developer または Rational Software Architect を停止してください。
- Rational COBOL Generation Extension for zSeries のインストール中は、Rational Application Developer または Rational Software Architect の更新をインストールしないでください。
- Linux の場合: root 以外のユーザーにこの製品を使用できるようにする場合は、umask 変数を設定する必要があります。製品のインストールに使用される端末セッションの umask 設定を 0022 に設定します。この変数を設定するには、root ユーザーとしてログインして端末セッションを開始し、umask 0022 と入力してください。

注: ご使用のシステムで自動実行が使用可能になっている場合は、製品のインストールを試行する前に umask 設定が 0022 に設定されていることを確認してください。umask 設定が 0022 に設定されていないで、InstallShield ウィザードがシステムによって自動的に起動された場合は、インストールを続行しないでください。代わりに、InstallShield ウィザードを閉じて、umask 変数を 0022 に設定し、9 ページの『インストール・プログラムを使用して Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールする』の節にあるステップに従ってインストール CD からインストール・プログラムを開始します。

- 電子イメージを使用する場合は、Rational COBOL Generation Extension for zSeries のファイルのすべての必要なパーツをダウンロードします。Rational COBOL Generation Extension for zSeries のダウンロードしたイメージを保管するには、Windows システムの場合は約 105 MB のディスク・スペースが必要で、Linux システムの場合は 180 MB のディスク・スペースが必要です。イメージを解凍するには、Windows システムの場合で 75 MB の追加ディスク・スペースが必要となり、Linux システムの場合で 125 MB のディスク・スペースが必要となります。

インストール・プログラムを使用して Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールする

この製品は、CD、あるいはローカル・マシンにダウンロードされて抽出された電子イメージから、または共用ドライブにある電子イメージからインストールできます。

電子イメージをダウンロードおよび作成する方法については、13 ページの『電子インストール・イメージを作成する』を参照してください。

インストール・イメージを共用ドライブに作成する方法については、15 ページの『インストール・イメージを共用ドライブに作成する』を参照してください。

アクセシビリティ情報

インストール・プログラムは対話式コンソール・モードでも実行できます。このモードはユーザー補助が必要な人に適しています。-accessibility オプションは、スクリーン・リーダー・プログラムを使用する場合にランタイム・コンソール・モード・ウィザードをより使いやすくします。コンソール・モードで実行するには、インストール・イメージの %disk1 ディレクトリーに移動して、次のコマンドを 1 行で入力します。

- Windows の場合: `setup.exe -is:javaconsole -log @NONE -accessibility`
- Linux の場合: `setup.bin -is:javaconsole -log @NONE -accessibility`

-accessibility オプションを指定する場合、-is:javaconsole オプションは重要です。このオプションを指定しないと、インストール・プログラムが停止します。-log @NONE オプションはロギングをオフにして、コンソール・ウィンドウにログ情報をリストしないようにします。インストール中に問題が発生した場合は、ログ情報を収集するために、このオプションを外さなければならない場合があります。

インストール手順

Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールするには、以下のステップに従います。

1. 7 ページの『インストール前の作業』の節にある作業を完了します。
2. 2 ページの『ユーザー ID 要件』の節で説明されている、必要なアクセス権限をもったユーザー ID でシステムにログインします。
3. インストール・プログラムを開始します。
 - CD からインストールする場合:
 - a. Rational COBOL Generation Extension for zSeries V6.0.1 インストール CD を CD ドライブに挿入します。
 - b. Linux の場合: CD ドライブをマウントします。

- c. システムで自動実行が使用可能になっている場合は、インストール・プログラムが自動的に開始します。システムで自動実行が無効になっている場合は、次のコマンドを実行してインストール・プログラムを開始してください。
 - Windows の場合: `Drive:¥setup.exe`
 - Linux の場合: `CD_device/setup` (`CD_device` は、SUSE Linux の場合はデフォルトで `/media/cdrom`、Red Hat Linux の場合は `mnt/cdrom` です)
- 電子イメージからインストールする場合:
 - a. コマンド行で、Rational COBOL Generation Extension for zSeries の電子インストール・イメージを含むディレクトリーに移動します。

Windows の場合: ネットワーク上の共用ドライブにあるインストール・イメージからインストールする場合は、装置名 (例えば、`x:sharename`) を指定してドライブをローカルにマップする必要があります。装置名 (例えば、`¥¥computername¥sharename`) を指定せずにネットワーク・ドライブにマップする場合、Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールしようとする次のエラー・メッセージが表示される場合があります、インストールが完了しません。

The wizard cannot continue because of the following error: could not load wizard specified in /wizard.inf(104)

- b. Linux の場合: この一時ディレクトリーにある `setup` ファイルのアクセス権が実行可能であることを確認します。例えば、次のように入力します。

```
chmod +x setup
```

- c. 次のコマンドを入力してインストール・プログラムを開始します。
 - Windows の場合:`setup.exe`
 - Linux の場合: `./setup`

注: ネットワーク・インストール・イメージからのインストール中にマシンが待機モードになると、インストールが失敗することがあります。

4. プログラムを開始すると、プログラムが起動してインストール・ウィザードの最初のページを初期化して表示します。「次へ」をクリックして先に進みます。
5. 使用条件を読みます。使用条件に同意し、「次へ」をクリックして先に進みます。
6. デフォルトで、Rational COBOL Generation Extension for zSeries は、Rational Application Developer または Rational Software Architect がインストールされているディレクトリーにインストールされます。オプションで、別のターゲット・インストール・ディレクトリーを選択できます。Linux の場合: **重要:** 名前に 2 バイト文字、またはドル記号などの特殊文字が含まれるディレクトリーにはインストールしないでください。そのようなディレクトリーにインストールすると、クラスパスの問題など、予期しない結果が生じることがあります。
7. 「次へ」をクリックして、Rational COBOL Generation Extension for zSeries のインストールの要約情報を表示します。

注: Windows の場合: 表示されるディスク・スペース所要量は、すべてのファイルに必要なバイト数の合計数です。実際に必要なディスク・スペースがこれ

をかなり上回ることがあるので注意してください。特にディスクが FAT32 でフォーマットされている場合は、小さなファイルが多数あると、FAT32 が使用するディスク・ブロック構造によりディスク・スペースの使用効率が低下するためです。

8. 「次へ」をクリックして、Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールします。
9. インストール・プログラムでは、開発環境のセットアップと Eclipse の初期化にしばらく時間がかかります。最後に、インストールの完了を確認するメッセージが表示されます。「次へ」をクリックしてインストールを完了します。
10. 次のページでは、Rational Product Updater を使用してインストール済みのフィーチャーの更新がないかを確認するようにメッセージが表示されます。(詳しくは、23 ページの『更新をインストールする』を参照してください。)「終了」をクリックしてインストール・ウィンドウを閉じます。

電子インストール・イメージを作成する

ダウンロードしたファイルから電子インストール・イメージを作成するには、以下の手順に従います。

1. すべてのファイルが、同じディレクトリーにダウンロードされていることを確認します。
2. ダウンロードしたファイルが含まれているディレクトリーに移動します。
3. Linux の場合: `chmod +x extractor.bin` のように入力して、このディレクトリーにある `extractor.bin` ファイルのアクセス権を変更します。
4. 次のように入力して、`extractor` ファイルを実行します。
 - Windows の場合: `extractor.exe`
 - Linux の場合: `./extractor.bin`

インストール・イメージを作成するためのウィザードが開始されます。

5. ウィザードの指示に従って、イメージの作成先を指定します。
6. イメージの作成後、即時に製品をインストールする場合は、「終了」をクリックします。あるいは、「インストール・ウィザードの開始 (Start the installation wizard)」チェック・ボックスをクリアし、後で、インストール・イメージを作成したディレクトリーから `disk1\setup.exe` (Windows の場合) または `disk1/setup.bin` (Linux の場合) を起動してインストール・プログラムを実行することもできます。
7. 9 ページの『インストール・プログラムを使用して Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールする』の節に記載されている指示に従います。

インストール・イメージを共用ドライブに作成する

ユーザーがネットワーク上からインストールできるように、インストール・イメージのコピーを共用ドライブに置くことができます。

共用ドライブからインストール・プログラムを実行するには、ダウンロードした Rational COBOL Generation Extension for zSeries の電子イメージを使用するか、または以下のように製品 CD の内容をコピーする必要があります。電子イメージの作成については、13 ページの『電子インストール・イメージを作成する』を参照してください。

CD の内容を保管するには、Windows システムの場合は約 75 MB のディスク・スペースが必要で、Linux システムの場合は 125 MB のディスク・スペースが必要です。CD からファイルをコピーするには、以下の手順に従います。

1. システムにログインします。
2. Rational COBOL Generation Extension for zSeries のインストール CD を CD ドライブまたは DVD ドライブに挿入します。インストール・プログラムが自動的に開始される場合は、インストール・プログラムを取り消します。
3. Linux の場合: CD ドライブまたは DVD ドライブをマウントします。
4. イメージの保管先のディレクトリーを共用ドライブに作成します。例えば、次のような名前にします。
 - Windows の場合: `network_drive:\install_image`
 - Linux の場合: `install_image`
5. インストール CD にあるすべてのファイルとディレクトリーを、前のステップで作成したディレクトリーにコピーします。

サイレント・インストール

インストール・ウィザードで作業したくない場合、Rational COBOL Generation Extension for zSeries インストール・プログラムをサイレント・モードで実行できます。

サイレント・インストールの起動

Rational COBOL Generation Extension for zSeries をサイレント・インストールするには、以下の手順に従います。

1. 7 ページの『インストール前の作業』の節にある作業を完了します。
2. 2 ページの『ユーザー ID 要件』の節で説明されている必要なアクセス権限をもったユーザー ID でシステムにログオンします。
3. 使用条件に目を通していない場合はお読み下さい。テキスト形式の使用条件は license ディレクトリーにあります。サポートされている言語ごとに個別のファイルが用意されています。使用条件に同意しない場合は、製品をインストールしないでください。
4. コマンド行で、電子インストール・イメージを保管したディレクトリーのルート・ディレクトリーに移動します (例えば、Windows オペレーティング・システム の場合は `network_drive:\%disk1`、Linux オペレーティング・システムの場合は `/tmp/disk1`)。
5. インストール・プログラムを開始します。

- Rational COBOL Generation Extension for zSeries をデフォルトのインストール・ディレクトリーにサイレント・インストールするには、次のコマンドを実行します。

- Windows の場合: `setup.exe -silent`
- Linux の場合: `./setup.bin -silent`

デフォルトで、Rational COBOL Generation Extension for zSeries は、Rational Application Developer または Rational Software Architect がインストールされているディレクトリーにインストールされます。

- Rational COBOL Generation Extension for zSeries をデフォルト・インストール・ディレクトリー以外のディレクトリーにサイレント・インストールするには、次のコマンドを実行します。

- Windows の場合: `setup.exe -silent -P installLocation="<my location>"`
- Linux の場合: `./setup.bin -silent -P installLocation="<my location>"`

<my location> は、Rational COBOL Generation Extension for zSeries に必要なインストール・ディレクトリーです。Linux の場合: **重要:** 名前に 2 バイト文字、またはドル記号などの特殊文字が含まれるディレクトリーにはインストールしないでください。そのようなディレクトリーにインストールすると、クラスタスの問題など、予期しない結果が生じることがあります。

応答ファイルを使用することで、デフォルト・ロケーション以外のディレクトリにサイレント・インストールすることもできます。詳しくは、『応答ファイルを使用してサイレント・インストールを行う』を参照してください。

6. Rational COBOL Generation Extension for zSeries をサイレント・インストールする場合、完了するまでにしばらく時間がかかります。インストールが完了したかどうかを判断するために、インストール・ディレクトリーの `¥logs` サブディレクトリーにある `egl_cobolgen_install.log` ファイルを定期的にモニターすることができます。
7. Rational COBOL Generation Extension for zSeries が正常にインストールされたことを確認するには、`egl_cobolgen_install.log` ファイルを調べます。現行のインストール (ログ・エントリーの日時で判断) に関してファイルにエラーが示されていない場合、インストールは正常に終了しました。

応答ファイルを使用してサイレント・インストールを行う

サイレント・インストールの場合、応答ファイルを使用して、インストール・プログラムの実行前にインストールで設定する値を指定しておくことができます。IBM Rational COBOL Generation Extension for zSeries の応答ファイルは `responsefile.txt` というファイル名で、インストール CD の `¥disk1¥util` ディレクトリー、または電子インストール・イメージの保管先のディレクトリーにあります。

応答ファイルを使用してサイレント・インストールするには、まず応答ファイルを作成し、次に応答ファイル・オプションを使用してサイレント・モードでインストール・プログラムを起動します。

応答ファイルを作成するには、以下の手順に従います。

1. `responsefile.txt` を新規ファイル (例えば、`myresponsefile.txt`) にコピーします。
2. 応答ファイルのコピーをテキスト・エディターで開きます。
3. ストリング `# -P installLocation=<value>` を含む行を見つけて、次のように変更します。
 - a. 最初の列にある `#` を除去します。
 - b. `<value>` を、使用するインストール・ディレクトリーに変更します。例えば、次のようにします。
 - Windows の場合: `-P installLocation= "x:¥myDirectory¥"`
 - Linux の場合: `-P installLocation= "/myDirectory/"`
4. 変更を保管します。

作成した応答ファイルを使用してインストール・プログラムをサイレント・モードで起動するには、17 ページの『サイレント・インストールの起動』の節にある指示に従いますが、インストール・プログラムの開始については次のコマンドを使用します。

- Windows の場合: `setup.exe -options "¥my response file.txt" -silent`
- Linux の場合: `./setup.bin -options "¥my response file.txt" -silent`

ここで `my response file` は、保管した応答ファイルの名前です。

Rational Application Developer または Rational Software Architect の EGL フィーチャーをインストールおよび更新する

Rational Application Developer または Rational Software Architect の EGL フィーチャーは、Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールするための前提条件です。

EGL フィーチャーをインストールする

以下のステップでは、Rational Application Developer V6.0 または Rational Software Architect V6.0 の CD から EGL をインストールするプロセスをガイドします。詳しくは、Rational Application Developer V6.0 または Rational Software Architect V6.0 のインストール・ガイドを参照してください。

1. Rational Application Developer V6.0 または Rational Software Architect V6.0 の 1 枚目のインストール CD を挿入します。ランチパッドから Rational Application Developer V6.0 または Rational Software Architect V6.0 を選択して、インストールを開始します。(インストール・ランチパッドが自動的に開始されない場合は、CD から **launchpad.exe** を実行してください。)
2. フィーチャー選択ページまで進みます。このページでは、オプション・フィーチャーのインストールを選択できます。
3. オプション・フィーチャーのリストから「**Enterprise Generation Language (EGL)**」を選択し、それ以外のすべての選択項目をクリアします。すでにインストールされているフィーチャーには影響はありません。選択されている他のフィーチャーをクリアすることで、インストール時間が短くなります。「次へ」をクリックして先に進みます。
4. その他表示されている指示に従って、EGL フィーチャーのインストールを終了します。インストールの途中で、インストールしようとしているファイルより新しいファイルがシステムに存在するというメッセージが 1 つ以上表示されて、対応を促される場合があります。これは、基本の Rational Application Developer または Rational Software Architect 製品とともにインストールされ、後で保守更新時にそれより新しいバージョンに更新されたファイルが原因です。これらのメッセージのいずれかが表示された場合は、「**すべていいえ (No to All)**」をクリックしてその既存ファイルをシステムに残してください。
5. インストールの終わりにあるチェック・ボックスをクリアして、Agent Controller をインストールしないようにします。「終了」をクリックして、インストールを完了します。

EGL フィーチャーを更新する

以下のステップでは、Rational Application Developer または Rational Software Architect をバージョン 6.0.1 以降に更新した後で EGL フィーチャーをインストールした場合にその EGL フィーチャーを更新する手順を説明します。Rational Application Developer または Rational Software Architect をバージョン 6.0.1 以降に更新する前に EGL フィーチャーをインストールした場合は、EGL フィーチャーを更新する必要はありません。

1. Windows の「スタート」メニューから Rational Product Updater を開始します。これはデフォルトで「スタート」>「すべてのプログラム」>「**IBM Rational**」>「**IBM Rational Product Updater**」の下にあります。
2. 「インストール済み製品」タブを選択します。
3. 「更新の検索」をクリックします。
4. Rational Product Updater が、入手可能な更新を製品更新サイトで検索して、EGL に必須の更新を自動的にダウンロードしてインストールします。Rational Product Updater が自動的にダウンロードしてインストールする EGL 更新が表示されます。
5. 更新が完了すると、更新が正常にインストールされたというメッセージが Rational Product Updater のウィンドウに表示されます。
6. Rational Product Updater を終了します。ここでインストールしなければならない更新はほかにはありません。

Rational COBOL Generation Extension for zSeries のアンインストール

Rational COBOL Generation Extension for zSeries をアンインストールしても、Rational Application Developer や Rational Software Architect はアンインストールされません。

Rational Application Developer や Rational Software Architect をアンインストールしても、Rational COBOL Generation Extension for zSeries は自動的にアンインストールされないことに注意してください。ただし、Rational Application Developer や Rational Software Architect がアンインストールされていれば、Rational COBOL Generation Extension for zSeries は機能しません。

Rational COBOL Generation Extension for zSeries をアンインストールするには、以下の手順に従います。

1. Linux システムの場合は root でログオンし、Windows システムの場合は Administrators グループに属するユーザーでログオンします。または、製品をインストールしたユーザーでログオンしてください。
2. Rational COBOL Generation Extension for zSeries を閉じます。
3. Rational COBOL Generation Extension for zSeries のアンインストーラー・プログラムを実行します。
 - Windows の場合:
 - a. 「コントロール パネル」を開いて、「プログラムの追加と削除」ウィンドウを開きます。
 - b. 「**Rational COBOL Generation Extension for zSeries V6.0.1**」を選択して、「変更と削除」をクリックします。
 - Linux の場合:
 - a. インストール・ディレクトリーの /egl_cobolgen_prod/_uninst サブディレクトリーに移動します。
 - b. コマンド ./uninstaller.bin を入力します。

ヒント: ファイル・マネージャーで作業を行っている場合は、ファイルをクリックしてアンインストーラーを起動することができます。

Rational COBOL Generation Extension for zSeries V6.0.1 の InstallShield ウィザードが開きます。

4. 「次へ」をクリックして、Rational COBOL Generation Extension for zSeries のアンインストールの要約情報を表示します。「次へ」をクリックして、製品のアンインストールを開始します。アンインストール・プログラムは開発環境の除去に多少時間がかかります。最後に、アンインストールの完了を確認するメッセージが表示されます。「終了」をクリックしてウィンドウを閉じます。

ユーザーの作業データを含むワークスペース・ディレクトリーは削除されません。

Rational COBOL Generation Extension for zSeries のサイレント・アンインストールを行う

Rational COBOL Generation Extension for zSeries をサイレント・アンインストールするには、以下の手順に従います。

1. コマンド行で、次のディレクトリーに移動します。

- Windows の場合: `installation_directory\eglcobolgen_prod\uninst`
- Linux の場合: `installation_directory/eglcobolgen_prod/uninst`

`installation_directory` は、Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールしたディレクトリーです。

2. 次のコマンドを実行します。

- Windows の場合: `uninstaller.exe -silent`
- Linux の場合: `./uninstaller.bin -silent`

製品のアンインストール結果を確認するには、ファイル `uninstall_log.txt` を参照してください。

更新をインストールする

Rational Product Updater は、IBM 更新サイトから Rational ソフトウェア製品の製品更新やオプションで新規フィーチャーを検索してインストールするツールです。

Rational Product Updater は、Rational Application Developer または Rational Software Architect をインストールしたときに自動的にインストールされます。以下のものの更新を検索してインストールできます。

- 製品更新。フィックスパック、更新パック、および暫定修正など。
- 新機能を提供するオプション・フィーチャー。

更新間の依存関係がある場合は、自動的に強制更新されます。Rational Product Updater も自動的に更新されます。

また Rational Product Updater を使用すれば、以下のタスクも実行できます。

- インストールした更新をアンインストールする
- 新規の更新をインストールした後で、古い製品ファイルが残っている場合は、そのファイルをシステムから除去する
- インストールされている製品更新の詳細リストを作成する

Rational Product Updater を起動するには、つきのコマンドを実行します。

- Windows の場合: `installation_directory\updater\eclipse\rpu.exe`
- Linux の場合: `installation_directory/updater/eclipse/rpu`

ツールの使用については、Rational Product Updater のヘルプ・システムを参照してください。ヘルプを参照するには、Rational Product Updater で「ヘルプ」>「ヘルプ目次」を選択します。

Rational Application Developer または Rational Software Architect を更新する

Rational Application Developer バージョン 6.0 または Rational Software Architect バージョン 6.0 をバージョン 6.0.1 以降に更新するには、Rational Product Updater を使用します。これは、Rational COBOL Generation Extension for zSeries をインストールするためのソフトウェア前提条件です。

バージョン 6.0.1 更新パックまたはそれ以降の更新をインストールする方法について詳しくは、更新に付属するインストール指示を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

Intellectual Property Dept. for Rational Software
IBM Corporation
20 Maguire Road
Lexington, Massachusetts 02421-3112
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

- IBM
- Passport Advantage
- Rational
- WebSphere
- iSeries
- zSeries

Microsoft® および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



Printed in Japan

GI88-4062-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12